

国会議事堂 ～国政の中枢のしくみ～



- 宮中三殿賢所 - 国会議事堂 823m
- 宮中三殿賢所 - 駐日英国大使館大使公邸 823m
- 宮中三殿賢所 - 外務省 823m
- 宮中三殿賢所 - 旧首相官邸 823m
- 宮中三殿賢所 - 自由民主党本部 823m

線上

- 宮中三殿賢所 - 国会議事堂 - 首相官邸

国会議事堂

1887年（明治20年）4月の閣議で、議事堂建築予定地が麹町区永田町一丁目（現・千代田区永田町一丁目の現在地）に決定されたが、官庁集中計画には多額の経費が必要であり、帝国議会の開設も切迫していたため、この計画による議事堂建築は中止された。麹町区内幸町二丁目（現・千代田区霞が関一丁



目、現在の経済産業省敷地)に仮議事堂が建設された。現国会議事堂は、昭和11年(1936年)11月に建設。当時は日本一の高さを誇り、永田町の高台に美しいみかげ石で装われた議事堂が「白亜の殿堂」と賞賛された。東京都千代田区永田町1丁目7-1

備考

キャップストーンのあったとんがり屋根が中心と思ったが、正面奥の部屋が2階は大臣室、3階が天皇の御休所となっているので、ここが中心ポイントになるのだろう。

駐日英国大使館大使公邸

現在の地に大使館が設置されたのは明治5年(1872)年5月。太平洋戦争の勃発と共に、日英の国交は断絶し、大使館も閉鎖された。終戦直後、大使館は英国海軍の管轄下におかれ軍艦扱いされた。艦名はリターン号であった。1946年(昭和21年)6月、大使館は「駐日英国連絡公館」として通常の業務に戻り、1952年(昭和27年)4月のサンフランシスコ講和条約の締結により、大使館の名称に戻った。



外務省

1871年(明治3年)に外務省は銀座から霞が関に移転し、江戸時代に建てられた大名屋敷の福岡藩黒田邸上屋敷をそのまま使用していたが、1877年(明治10年)2月1日に焼失した。1881年(明治14年)、フランス人建築家ポアンヴィルの設計による新庁舎が竣工。1970年(昭和45年)に完成した。1885年(明治18年)の内閣制度創設以後、一度も名称を変えていない唯一の省である。

首相官邸

総理大臣官邸は内閣総理大臣の執務の拠点。一般に総理官邸、首相官邸、あるいは単に官邸ともいわれる。所在地は、隣接して内閣総理大臣が居住する総理大臣公邸がある。現在の官邸は2002年(平成14年)4月22日から使用されている。(建設は1999年、2000年、2001年、2002年の期間行われ、2002年に旧官邸より官邸機能を移行した。)東京都千代田区永田町二丁目3番1号

旧首相官邸

1926年(大正15年)、震災復興に伴う中央諸官衙計画の一環として、旧鍋島邸跡地に総理大臣官邸を新設することとなった。旧官邸は1929年(昭和4年)に完成。当時は「内閣総理大臣官舎」と呼ばれており、門には表札がかかっていた。現在、旧官邸の建物は敷地内を曳家工事により移動し改修を施された上で総理大臣公邸として利用されている。永田町二丁目一番地

備考

国会と総理官邸と宮中三殿がつながる。日本を支配する中枢的なしくみ。

英国大使館や自由民主党本部までつながる。対戦国だった英国の大使館をこの重要な祭祀線上の場所になぜ置いていたのか気になる。少なくとも現在も英国が天〇家や国政にとっても深く関与している証拠ではないか。イギリスと天〇家の関係について驚くサイトを見つけた。

<https://ameblo.jp/eigo-garage/entry-12052541306.html>

14年前の首相官邸の建て替え地の選択も見事。首相と国会の背後には、宮中三殿の天照皇大神（伊勢神宮）がいる。現代もカバラ使いが活躍している証拠。国民主権の日本になったはずなのに、明治維新から変わらず天皇主権のままなことを表している。キャップストーンにポイントを置けば、裁判所や検察庁、天守台も同距離になる。

